

第 66 回岐阜県 PTA 研究大会 planning 飛騨にて発表の機会を下さった岐阜県 PTA 研究大会実行委員会の皆様には厚く御礼申し上げます。

また当校の発表に沢山のご感想、ご意見、ご質問をいただき誠にありがとうございました。

以下に回答をさせていただきます。よろしくお願いします。

○PTA 本部「スマイルフェスタ」について

Q：スマイルフェスタの内容はどのようにして決められていますか。

A：令和元年度は平成 30 年度のスマイルフェスタ後のアンケート結果を踏まえて、本部メンバーでの話し合いで決定しました。

Q：中学校のブラバンによる音楽会ですが、吹奏楽部員だけ授業を抜けて小学校の音楽会に参加するのでしょうか。

A：スマイルフェスタを土曜日に開催し、中学校では部活動の土曜練習の時間を利用し参加していただきました。

Q：防災訓練の準備期間や予算、内容について詳しく知りたいです。

Q：「水害紙芝居」はどのくらいの大きさで何人を見ることができますか。費用はどのくらいで PTA 会計から出ているのですか。

A：イザ！カエルキャラバンについてご説明します。

～ 楽しみながら、しっかり学ぶ。新しいカタチの防災訓練 ～

「イザ！カエルキャラバン！」は、阪神淡路大震災の被災者から教わった、防災の教訓や知恵を次の世代へ伝えるために、NPO 法人プラスアーツと美術家・藤浩志氏が共同で開発した新しいカタチの防災訓練です。

2005 年の阪神・淡路大震災 10 周年事業として神戸で開催して以来、全国のみならず海を渡った海外でも開催されています。

詳しくはこちらへ↓

<http://kaeru-caravan.jp/>

これを東明小で開催するにあたり、最初にプラスアーツから講師を派遣していただき研修会を行いました。研修で学んだ防災プログラムの多くは、少人数（5 名～10 名）で行うものになっているため東明小の規模（児童と学校職員、保護者合わせて 500 名位）に合わせて自分たちで修正します。

準備期間は約 3 か月です。費用は研修会での講師の出張料、機材など約 12 万円で、実施にあたり機材のレンタル費が約 2 万円になります。

条件がありますが2回目以降実施の場合は研修会不要なので、その分の費用は掛からないとの事です。
費用は全額 PTA の予算から出ています。

「持ち出し品なあとクイズ」「水害紙芝居」については、体育館でプロジェクターを利用して、大きくスクリーンに映しています。このデータについてもプラスアーツからお借りしています。

○母親委員会の活動について

Q:「一家庭一実践」の料理の挑戦は長期休み中の学校からの宿題として出されているのですか。「お弁当の日」の取り組みですが、平日に行うことで保護者の中には負担を感じている方はいなかったでしょうか。

A:「母親委員会からの取り組み」で「長期休み中の課題」として行っていますので、内容・提出物については成績に一切反映されない関係ないものとなっています。

平日の児童のお弁当作りは、保護者も早起きして見守るため、負担は絶対にあります。アンケート結果で負担に感じたという意見もごく少数ですがありました。ただ、多くの保護者から「子供の成長を感じた、一緒に料理をして楽しかった、生きる力がついてきた」等肯定的にとらえる感想が圧倒的に多く、今後も続けたいと考えています。児童からは、「お弁当を作る親の大変さやありがたさ、自分でお弁当が作れた達成感、おいしかった」といった感想が多く、児童の成長への取り組みのひとつになれたのではと考えます。

Q:様々な家庭環境がある中、「一家庭一実践」が困難な所もあるのではないのですか。レシピ作りや弁当作りができなかった子がいた場合どういう対応をするのですか。

A:5.6年生で行う「お弁当の日」にむけて、1年生から料理に親しむ取り組みを「一家庭一実践」で行っていると新1年生から毎年案内を配布し、心の準備も始めてもらっています。レシピもお弁当作りも保護者のサポートは必須ですが、事前に担任の先生から声かけしていただき、お弁当づくりができなかった児童はこれまでにいませんでした。お弁当を忘れた場合は朝1番に担任が確認しますので、保護者へ連絡し持参いただく対応になります。

保護者からは、負担に感じながらも協力的に取り組んで頂き、結果良かったとする意見が多く、「一家庭一実践」が家庭環境上困難であるといったご意見をいただくことがなかったため、今後の参考にさせていただきたいと思います。

Q:お弁当の日はどのくらいの頻度ですか。年に何回で何曜日に実施ですか。

A:「お弁当の日」は年に1回です。食中毒のリスクを減らすため冬期の取り組みにしており、平成30年度は金曜日でしたが、前日に準備・下ごしらえがしたいといったご意見が多く、令和元年度は月曜日にしました。そうしたら週の初めの早起きが大変と言ったご意見もあり悩むところです。

Q:これらの活動に対しての参加率はどのようなものですか。参加率をあげるコツはありますか。

A:「一家庭一実践」・親子会の参加率は100%です。各保護者の家庭の事情もあり、ベルマーク・カー

テン洗濯・挨拶運動は 90%程度ですが、周囲の保護者で助け合い行いました。

活動内容・日程は最初の母親委員会で一覧表を配布し、忘れず予定していただけるよう活動の前月 10 日より前に詳細の案内を配布しました。近辺の幼稚園・保育園・中学校の行事と重ならないように注意し、小学校の保護者参加行事の続きで活動できるように予定を組み、短時間の活動にするため段取りの見直しや事前準備するなど、負担を軽減できるよう考えました。当日事情があり欠席される場合の連絡ができるよう、母親委員長と副委員長の連絡先を各活動依頼のお便りに毎掲載せました。

Q：一家庭一実践は面白いと思いました。お弁当作りのほかに何かありますか。

A：東明小では、5・6 年生のお弁当作りを目標に 1 年生から夏休みと冬休みに家庭での 1 品～2 品の料理づくりを保護者と取り組んでもらっています。

Q：御校では食育に大変力を入れているようですが、食育に対してどのような考えを持ち、子供の成長に対してどう影響を与えると感じてみえるのか聞かせていただきたいです。

A：食育基本法に基づいた方針や目標にむけて、児童が健康に育ち食に関して自立できるようにと考えています。「一家庭一実践」でできる食育の取り組みは、レシピ作りを家族に相談する中で食材選びや栄養バランスを考えること、調理の技術を習得すること、料理を作る楽しさや達成感を感じること、毎日の食事やお弁当作りの手間を知ること、家族や友人と楽しくおいしく食べる経験といった学びを期待できるのではと考えます。

各家庭の食に対する考え方や児童の取り組む姿勢により個人差はありますが、児童が成長し自分で食事を選ぶ際に、調理して食べるという選択もできるような取り組みの一つになるといいなと思います。

○学級委員会 親子会について

Q：この親子会は長年受け継がれたものですか。予算は PTA 会費から出されているのですか。

A：長年受け継がれています、予算は PTA 会費から出されています。

Q：学級委員会は各学年 2 名ほどですか。ボランティアも募ってやってみえるのですか。

A：学級委員は各クラス 2 名です。親子会の内容により、ボランティアを募る場合もあります。

例えば、五平餅づくりについては、学校の炊飯器では炊ききれないため当日の朝、ご飯を炊いて持ってきてもらう炊飯ボランティアや、炭の火起こしにお父さん（U 字溝が重い）ボランティアを募ったりしています。

Q：可児市の五平餅の特徴はありますか。

A：各家庭で異なるようです。

東明小学校では、児童が稲作に携わった米を使用しています。タレのレシピについては、事前にアレルギー調査を行い、アレルギーのある児童がいた場合は配慮してアレルギーの原因になる食材は使用せずレシピを変更しています。形はわらじ型で炭焼きしました。

Q:稲作や陶芸、茶道は地域の方が教えてくれるのですか・五平餅をつくる親子会に興味を持ちました。スムーズに進行させるために気を付けたことがあれば知りたいです。

A:稲作や陶芸、茶道は近くファームの方、地域の茶道や陶芸の師範の方が教えてくれます。スムーズに進行させるために気を付けたことは、役員がしっかり流れを覚えプリントを作り、会場の家庭科室の黒板にも記入し、何をすればよいか分かるようにしておきました。材料もすべて計量し小分けを行い、混ぜるだけにしておきました。その間に外で炭に火を起こしてもらい、すぐに焼くことができるよう準備しています。最後の消火は特に注意を払っています。

Q:親子会の開催日は主に何曜日で、1学年ずつですか。

A:1学年ずつ、平日の曜日ですが固定はないです。授業参観の続きで行う事もあります。

Q:五平餅作りですが、両親が参加しているのでしょうか。レシピは公開されていますか。

A:両親で参加される方もいます。

東明小の五平餅作りとして5年生になるとレシピのプリントが配られます。一般的な作り方です。

Q:親子会で4年生の命の授業はどこまで突っ込んで行っているのか、どんな内容か知りたいです。

A:東明小では「十歳のきみへ」というタイトルでNPO 法人エフ・フィールドのスタッフの方に来て頂いて実施しています。

詳しくは↓

<https://www.ffield.jp/about.html>

この授業の終わりに、子ども達には内緒で、生まれた頃の写真にメッセージを添えて子どもに渡します。子ども達は親子会が終わった後の授業で返事を書きます。

Q:親子会への参加状況が知りたいです。また茶道や命の授業など専門性の高いものはどのように講師に依頼されているのでしょうか。

A:親子会の参加は、体調不良の欠席以外は100%です。講師の方は、学校の茶道の授業でお世話になっている師範の方に学年主任の先生を通して依頼しています。

命の授業は「十歳のきみへ」というタイトルでNPO 法人エフ・フィールドのスタッフの方に来て頂いて実施しています。

Q:ひとり親家庭への配慮を教えてください。

A:ひとり親への配慮というものではないですが、行事自体が必ず両親そろう必要がないものになっています。役割がある本部役員でも、行事の際に児童のそばに付き添えるよう考え、スマイルフェスタでは児童の隣に座って参加し、係の役割のときだけ前に行くというスタイルにしました。

Q:どのようにしたら参加意欲を高められるのでしょうか。

A：授業参観と同日にし、予定が立つよう早めに日程を告知するよう務めました。

○PTA 活動について

Q：スマイルワンコはいじめ防止のために執行部が企画されたキャラクターということですが児童にとってどんな成果や、気持ちの変化があったのでしょうか。参考までにお聞かせ下さい。

A：上記質問について、成果・変化を児童にアンケートをとったわけではないので分かりませんが、スマイルワンコの掲示により意識する児童も中にはいたのではないのでしょうか。

H29 年度は小学校でいろいろないじめ防止等の活動を行っており、「スマイルワンコ」はその一つの活動です。元々 PTA 側にいじめ問題が聞こえてくるようなことはありませんでした。そのため成果や気持ちの変化などがどれくらいあったかは具体的にはわかりません。

Q：スマイルワンコのデザインに関して著作権問題などは考える必要はありましたか。またどのように生まれ、作者の諸費用や作成時間など可能でしたら教えて下さい。

A：スマイルワンコは H29 年度に児童会の募集で児童が作成しているため、諸費用・作成時間は不明です。著作権については児童会の担当職員がチェックされたのでは？と考えます。

当時のスマイルワンコのポスター

東明小児童会マスコットキャラクター（デジタル版）

登場！スマイルワンコ

作：6 年生 吉山さとみ さん

可児市“いちばん”の東明小児童会

子供の笑顔輝く、可児市“いちばん”の学校めざして

○児童会がマスコットキャラクターを募集しました。
児童会の呼びかけに応じて、なんと 260 点の楽しいキャラクター作品が集まりました。その中から 4 点を選び、更に全校で投票した結果、6 年吉山さとみさんがデザインした「スマイルワンコ」に決定しました。
おめでとうございます。そしてステキな作品をありがとうございました。

「スマイルワンコ」のしょうかい

- ① いつも笑顔でみんなに「ふわふわことば」をつかいます。
- ② スマイルの杖（つえ）をもって、みんなを笑顔にします。
- ③ 「ふわふわことば」をつかおうとみんなによびかけます。

みんなでかわいがってたくさんのスマイル（笑顔）をつくろう！

Q：スマイルワンコは猫ですか？ふだん継続して取り組まれていることはありますか。

A：おそらく犬だと思います。（いや、犬です（笑））表題にあるように「学校・家庭・地域で支え合いともに生きていく力を育む」活動に継続的に取り組んでいます。

Q：スマイルワンコの認知度を上げた後の次の目標としてはどんなものを考えられていますか。

A：スマイルワンコが誕生した経緯を次年度の役員に引き継ぎ、いじめをしない・させない児童が育つよう取り組んでいただきたいです。

Q：役員選出や雰囲気作りで何か特別に工夫されていることはありますか。

A：特別なものはなかったと思いますが、活動を楽しむようにしていました。役員選出は、可能な範囲で協力していただくこと、欠席する際に連絡はしていただくようお願いしていました。

Q：中身の濃い内容に感銘しましたが、役員の中で、思いの共有、意思疎通、話し合い、皆様お忙しい中、（会議やメールのやりとり等）どのようにされたのですか。

A：お互いの連絡先を交換し、ラインアプリを活用し、また大きなデータは「データ便」サービスを利用しました。学校との連絡は窓口を決めて動ける人をお願いし、集まりは地域の集会所を活用させていただきました。

Q：私の学校では役員のなり手、やりたい人が少ないのですが、役員さんの負担と親子の絆のためのPTA活動そのあたりのバランスはどうお考えでしょうか。選考方法を教えてください。

A：児童の減少に伴い、PTA 役員のなり手不足は東明小学校でも同様に抱えています。

選考方法は、地域ごとに持ち回りでどの役員を何名選出か役員選出内規に定めてあります。

基本その地域のローカルルールで選出されますが、主に話し合いや、じゃんけん、くじ引き等されています。学級委員は、立候補か推薦です。

前年度の役によって、学級委員が1年免除、3年免除、5年免除などの規約があり、どのタイミングで役を受けるかは各家庭で先を見越して心積もりされていると思われます。

負担の軽減は、スリム化できるものはする事、親子行事で児童が楽しみにしている行事は削らないが、ボランティアを募って個々の負担を軽減する事、予算内で(特に無料なら)外部に委託できるものは活用し、先生方に協力いただける事はお願いし、さらに知恵を拝借する事で取り組みました。

Q：PTA 活動のスリム化について取り組まれていることがあれば教えてください。

A：当校ではPTA 本部の先生がカットできる行事の提案や、役割の代替案を出して下さったこともあり、いくつかの負担軽減につながったと思います。また3年毎に役員定数の見直し作業を行っています。

Q：今年のコロナの状況の中で取り組まれている行事、役員会などあれば教えてください。

A：資源回収については、規模を縮小し実施しました。役員会議は開始時間を早め、通常は本部役員会及び代議員会と行っていたものを本部役員会のみとし、時間を短縮しました。

Q：様々な家庭の形がある中で母親委員会という名称を変更する意見などはありませんか。

A：東明小 PTA は可児市 PTA 連合会に所属しており、そちらの名称が「母親委員会」なので、当校もそれに準じています。変更の意見はでたことはないと思います。

Q：母親委員と学級委員の働きの違いは何ですか？

A：学級委員は各学年での活動（学年懇談会の司会、親子会など）が主で、母親委員は全学年を通して活動（学校図書の修復作業、教室のカーテン洗濯、ベルマーク集計、一家庭一実践など）を行います。

Q：一般の P T A 会員の参加率、協力度はどのくらいですか。

A：具体的に集計してあるものは、環境整備部による夏休み期間中の環境整備作業（校庭周辺の草刈り）2 日間で、どちらかに参加していただく方式で出欠を取っていますが、約 94%参加という実績があります。尚、出席できなくてもペナルティは設けておりません。

Q：今年度残りの期間で例年と違い何かイベントの企画はありますか。

A：6 年生を対象としたイベントを計画しています。

Q：今後新型コロナウイルス対策を講じた行事活動の変更はどのようにしていくのですか。

A：この先どのようになっていくか予測が付かない状況なので、都度、可児市や教育委員会からのガイドラインなどに基づいて随時変更をしていく予定です。

Q：可児市は今、「麒麟が来る」で注目を集め、名所が多くありますが、それに関連した歴史を学ぶような取り組みはなされているのでしょうか。

A：PTA の行事としては特にありませんが、東明小は可児市久々利にあり、この地で志野や瀬戸黒などの復興に尽力された人間国宝の荒川豊蔵氏について授業で学びます。また 1 年生から 6 年生まで陶芸を授業で行っています。

1 年生は入学してすぐに抹茶茶碗に絵付けをし、それを 6 年間、学校での茶道の授業に使います。

これを保護者もやりたくて、PTA ではなくて令和元年度の東明小家庭教育学級が「抹茶茶碗の絵付け」講座、親が作った My 茶碗での「親子茶道」講座を実施しています。

Q：PTA スローガンは踏襲制ですか、でなければどう決めているのですか。

A：踏襲制ではなく、その年の役員で案を出して話し合っ、揉んで決めています。

令和元年度のスローガンは、校長先生が「子ども達に生きていく力を与えたい」と年度最初の役員会で話されました。これは「日本の若者・子どもたちが、諸外国と比べて「自尊感情（誇り）」が低く、将来への夢を描けない」と言うことだそうです。

子ども達ひとりひとりが、家族、友達、先生、学校、この地域が大好きという気持ちが「誇り」となり、

それが生きていく力になると考えました。

またこの年は東明小創立 50 年にあたり統合前の小学校の事にも触れ、統合前から親から子へ「誇り」を伝えながら、地域に愛される誇りある母校になってきたと考え、「タスキ」という言葉を入れました。

Q：小規模校なのでその中で生きていく力を育てるために参考として組織体制を教えてください。

A：PTA 本部：5 名（会長、副会長（男性）、副会長（女性）、書記、会計）

代議員：8 名（4 つの専門部の部長・副部長兼任）

地区委員：19 名（各地区から 3 名～8 名選出）

学級委員会：18 名～20 名（各クラス 2 名）

母親委員会：委員長（女性副会長が兼任）、副委員長（本部の書記と会計のうち女性の方が兼任）

母親委員：18 名～20 名（学級委員が兼任）

家庭教育学級：役員 4 名（PTA とは別で組織されています）

Q：活動を計画、準備、実行されるまでにどんな苦労がありますか。またどんな点に気を付けてみえますか。

A：役員さんそれぞれ、仕事・家事・育児・介護・自己の体調管理・地域の役割に加えて PTA 活動があり、バランスをとる大変さや苦労があったと思います。

役員全員が計画内容をよく理解し助言・相談は積極的に行い、希望するところはなるべく添えるように役割分担を行い実行しました。

Q：活動に対するネガティブな意見も出てくるとはと思いますが、どのように対応されていますか。

A：改善につながる意見は参考にし、どうしてもならないようなクレームはスルーしています。万人に納得・賛同してもらうことは期待できないですが、理解し共感してくれる人がいれば成功だと考えています。

Q：活動については親からの一方的な押し付けになりがちなのですが、活動に関して子どもたちからの意見を取り入れる場所や機会なのがあるのでしょうか。

A：「スマイルフェスタ 番外編 他にもこんな企画があった！！！」の没イベントの一環で、子ども達とその保護者に、東明小の自慢はありますか？とアンケートを実施したところ、学年関係なくみんな仲が良い、という声が非常に多くあり、次いでお茶会、陶芸、五平餅作りなどの体験ができる、自然が豊かななどの声が多くありました。（スマイルワンコがなかった・・・）

Q：PTA 役員さんが実施される親子参加型イベントには本部役員以外の役員さん方も一緒に実施する側に回るのでしょ

A：親子会は学級委員主催で実施、スマイルフェスタは本部役員主催で実施、他はボランティアさんや諸先生方の協力のみです。PTA 役員の方は児童と参加して楽しんでいただけるようにしました。

Q：なぜこんなに一つ一つの取り組みが豊かで、一体感を持って行われているのか明確な理由が知

いです。

A：お褒めいただきありがとうございます。小規模校であること、伝統を引き継いでいること、先生方や地域の方、保護者の皆さんの協力があること、児童が素直であることが理由だと思います。

Q：うちの中学は行事を計画してもなかなか参加が少ないために行事はもちろん母親委員会もなくなってしまいました。いろいろ考えられてやって見えると思いますが何か特別にされていることはありますか。

A：せっかく企画された行事がなくなってしまったのはとても残念でしたね。母親委員会は縮小したりなくされる学校は増えていると聞きます。児童の減少や、共働きの保護者の増加に伴い、スリム化は必要だと考えます。削れる行事を削る、作業の効率化を考え活動時間が短縮するようにしていますが、特別なことと言えることは特にしていません。

Q：成果と課題を、どのようにして子供たち、保護者、先生型と共有されているのか、フィードバックの方法にどのような手段や工夫がされているのか？

A：活動に対しアンケートをとって結果を配布し、役員会で報告し情報共有を図り次年度役員に引き継ぎしていています。

Q：コロナ渦の中、来年度の取り組みや活動についてどんなことを考えていますか。

A：例年通りの計画を立てることになると思いますが、状況によって縮小、中止となると思います。

Q：ベルマークの回収は、どの組織を活用して行っているのでしょうか。

A：母親委員会です。「ベルマーク週間」の案内を配布し、各家庭から子どもたちが学校へ持ち寄ってきます。ちなみにプリンターのインクカートリッジも回収しています。（メーカー純正品に限る）

○その他

Q：発表は写真、動画などでとても分かりやすく伝わってきましたが、進めていくにあたってアドバイスいただける方（役員以外に）がいたのですか。

A：ありがとうございます。今回の県P研究大会発表チームではPCやofficeに詳しい方がいて機材準備から作成まで全てチームで行っています。

可児市緑ヶ丘自治会に協力していただいたのは、打ち合わせと撮影にあたり自治会の集会所をお借りしました。

Q：運動会ダイジェストは誰が作成して見えますか、作成時間、期間はどのくらいですか。

A：令和元年度PTA本部会計の廣江が1週間くらいで楽しんで作りました。（本人談）

最後に多くの方からご指摘のありましたエンドロールについて修正いたします。
ありがとうございました。

